

いのち ひろば

連載

(33)

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと

- ・創(きず)管理の基本は創部の清浄化と感染予防です。
- ・褥瘡は予防が大切であり、治療・ケアは多職種連携で行うべきです。

形成外科と

創傷(きず)の治療

おかべ形成・整形外科クリニック 岡部 勝行



形成外科とは

今までの外科は病巣を取り除き治癒を目指すものでしたが、形成外科ではできるだけ正常に近い状態にまで治癒を目指すものです。いわゆる再建外科であり、治療範囲は頭(の先)から足先まで全身です。いかに美しく機能的に治すかを命題にしています。

対象疾患としては、あらゆる外傷(切断指、神経断裂、腱断裂、顔面骨折)、熱傷、先天性(多指症、合指症、唇裂、口蓋裂、小耳症、包茎、臍ヘルニア)、皮膚腫瘍、皮下腫瘍、軟部腫瘍、筋腱拘縮、神経麻痺・神経障害、褥瘡(床ずれ)、難治性潰瘍、手の外科、足の外科(陥入爪、外反母趾)、リンパ浮腫、眼瞼下垂、加齢変形等美容外科、レーザー治療(シミ取り、脱毛)、ボトックス治療(多汗症、痙攣)程度、組織損傷の程度を

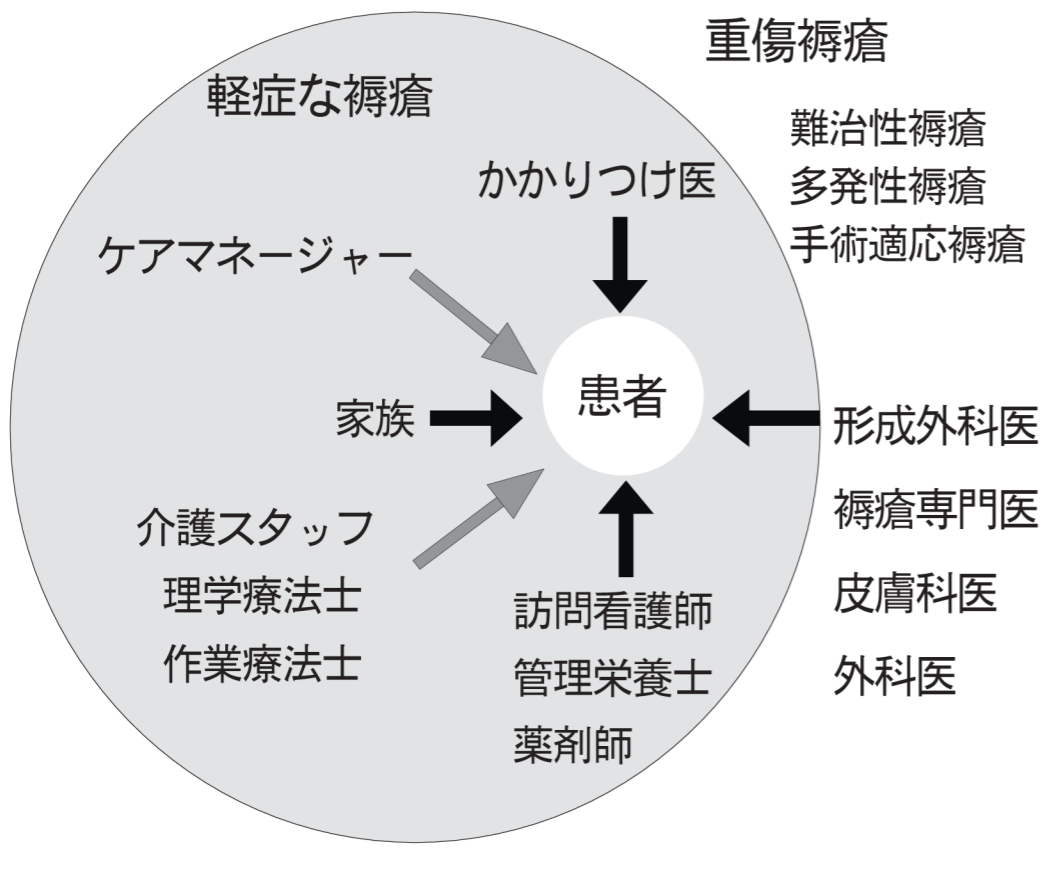
傷について

創傷には外傷による急性創傷と基礎疾患により作られる慢性創傷があります。

【急性創傷】

外傷においては受傷起点や創の深さや創汚染の程度、組織損傷の程度を

形成外科医・褥瘡専門医の在宅褥瘡患者への関わり



形成外科の対象疾患

- あらゆる外傷 (切断指、神経断裂、腱断裂、顔面骨折)
- 熱傷
- 先天奇形 (多指症、合指症、唇裂、口蓋裂、小耳症、包茎、臍ヘルニア)
- 皮膚腫瘍・皮下腫瘍
- 軟部腫瘍
- 筋腱拘縮
- 神経麻痺・神経障害
- 褥瘡(床ずれ)
- 難治性潰瘍
- 手の外科
- 足の外科(陥入爪、外反母趾)
- リンパ浮腫
- 眼瞼下垂
- 加齢変形等美容外科
- レーザー治療(シミ取り、脱毛)
- ボトックス治療(多汗症、痙攣)
- 顕微鏡を使った再建手術など



しっかりと診断して速やかに汚染物質や異物を大量の水道水または蒸留水や生理食塩水で洗浄除去することが大切です。

洗浄後の創が清浄であれば神経や動脈や腱等の損傷組織を修復してから皮膚を縫合閉鎖し、感染予防と固着予防としてソフラチュールガーゼを貼付します。

【慢性創傷】

褥瘡(床ずれ)は持続圧迫で阻血性の組織損傷が起った状態です。

創の清浄化が十分にできない場合や、創縁に発赤腫脹があるようなら、縫合せずに抗生物質軟膏等を塗布し、創固着しないように、創内の浸出液を十分吸収できるような、ガーゼを厚くあててます。

皮膚壊死が起きてしまったら壊死組織を切除して肉芽をあげる薬剤を使用します。そうすると肉芽が成熟してきて周囲より痂痕上皮化してきます。この起点がなかなか起きてこないようなら再建手術の適応と考えて、すみやかに形成外科受診すべきです。

また、褥瘡治療でラップ療法を安易に行っている症例がみられますが、感染から敗血症をおこし死亡することが少なくないのであまり勧められません。

下肢のうっ血性皮膚潰瘍は下腿静脈瘤が原因です。この治療を先行して、そのうえで植皮術を行い圧迫包帯療法を継続してゆくべきです。

急性期が過ぎたら刺激性も固着性もないエキサールベ軟膏等やハイドロコロイドドレッシング等で創管理をするとよいでしょう。

受傷3週間過ぎても上皮化してこない創は植皮術の適応です。形成外科ではいかに早期に元どおりに治療させるかを命題に治療しています。

熱傷では受傷時は大量の水道水で20〜30分ほど冷やし、その後冷やしながらい医療機関を受診してください。最初は抗生物質含有ステロイド軟膏を塗布して密封包帯療法が有効です。さらに消炎鎮痛薬の内服薬か座薬の使用が効果的です。

急性期が過ぎたら刺激性も固着性もないエキサールベ軟膏等やハイドロコロイドドレッシング等で創管理をするとよいでしょう。

受傷3週間過ぎても上皮化してこない創は植皮術の適応です。

形成外科ではいかに早期に元どおりに治療させるかを命題に治療しています。

熱傷では受傷時は大量の水道水で20〜30分ほど冷やし、その後冷やしながらい医療機関を受診してください。最初は抗生物質含有ステロイド軟膏を塗布して密封包帯療法が有効です。さらに消炎鎮痛薬の内服薬か座薬の使用が効果的です。

急性期が過ぎたら刺激性も固着性もないエキサールベ軟膏等やハイドロコロイドドレッシング等で創管理をするとよいでしょう。

受傷3週間過ぎても上皮化してこない創は植皮術の適応です。

形成外科ではいかに早期に元どおりに治療させるかを命題に治療しています。

熱傷では受傷時は大量の水道水で20〜30分ほど冷やし、その後冷やしながらい医療機関を受診してください。最初は抗生物質含有ステロイド軟膏を塗布して密封包帯療法が有効です。さらに消炎鎮痛薬の内服薬か座薬の使用が効果的です。

急性期が過ぎたら刺激性も固着性もないエキサールベ軟膏等やハイドロコロイドドレッシング等で創管理をするとよいでしょう。

受傷3週間過ぎても上皮化してこない創は植皮術の適応です。

形成外科ではいかに早期に元どおりに治療させるかを命題に治療しています。

熱傷では受傷時は大量の水道水で20〜30分ほど冷やし、その後冷やしながらい医療機関を受診してください。最初は抗生物質含有ステロイド軟膏を塗布して密封包帯療法が有効です。さらに消炎鎮痛薬の内服薬か座薬の使用が効果的です。

急性期が過ぎたら刺激性も固着性もないエキサールベ軟膏等やハイドロコロイドドレッシング等で創管理をするとよいでしょう。

受傷3週間過ぎても上皮化してこない創は植皮術の適応です。

形成外科ではいかに早期に元どおりに治療させるかを命題に治療しています。

小田原医師会より住民の方々へ

新型コロナウイルス感染症(名称:COVID-19)の感染拡大が危惧される中、日々、様々な情報を耳にしていると思いますが、医療機関を受診する際の注意点をお知らせいたします。

①現在、何らかの理由で通院している方は、自己判断で通院(お薬)を中断しないでください。現在治療中の病態が保てなくなることで、病態そのものが悪化し、さらに体調が不安定になることで感染のリスクが高くなり危険が増します。処方薬のうけとり方はかかりつけ医と相談できますので問い合わせてください。

②感染症と思われる「体調不良」がみられるとき、特に肺炎など呼吸器症状があるときには、慌てて受診せず、右記の手順でかかりつけ医または近医に問い合わせをしてください。

不安な毎日を送られていると思いますが、協力してこの窮状を乗り越えましょう。

小田原医師会

医療機関検索は小田原医師会のサイトから利用できます

<http://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/>

発熱、咳・倦怠感で受診された方へ

- ・症状が見られる間は、無理せずに自宅で休養してください。

- ・不要不急の外出は控えてください。

- ・公共交通機関の利用も避けてください。(自家用車での移動をお願いします)

- ・どうしても必要な緊急の外出の際は、必ずマスクをしてください。

- ・処方された薬を飲んででも症状が続く場合は、処方された医療機関、またはかかりつけ医へ電話で相談してください。

(受診時間・受診方法等の指示があると思いますので、直接受診することはやめてください)

- ・かかりつけ医がない場合は

小田原医師会地域医療連携室へ

☎0465-47-0833

【医療機関の案内や受診に関する相談】

◎小田原医師会地域医療連携室
電話0465-47-0833

月から土曜日 9時から12時、13時から17時
※日曜日、祝・休日、年末年始は休み

○基礎疾患などがある方へ

糖尿病や心不全など基礎疾患がある方は、新型コロナウイルス感染症が重症化しやすいとされています。服用している薬のコントロールも重要になるので、治療、服薬は続けましょう。疑問があれば、かかりつけの医師やかかりつけの薬剤師に相談しましょう。かかりつけの医師や薬剤師がいない場合は、小田原医師会地域医療連携室にご相談ください。



発熱、咳、咽頭痛の症状がある場合は、かかりつけ医へ。かかりつけ医がいない場合には、小田原医師会地域医療連携室(☎0465-47-0833)、もしくは「発熱者等診療予約センター」(☎0570-048914;午前9時~午後9時)にすぐに連絡をしてください。

上記の症状がない方のお問い合わせは、「新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル」(☎0570-056774)まで。 ※県の「帰国者・接触者相談センター」は11月1日をもって終了しました。

新型コロナウイルス感染予防対策

地域での活動を再開するにあたって
~新たな日常を取り入れましょう~

1. 感染予防対策をしましょう

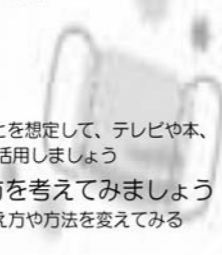
- マスクを着用しましょう
暑くて苦しい時は、無理せず、いったん外に出て人のいないところではずしたり、休憩したり、水分をとるようにしましょう。
- 入室する際は、アルコールで手指消毒をしましょう
石鹸での手洗いをし、なるべく物に触れないようにしましょう。
- 換気をしましょう
窓やドアを開けましょう。冷暖房中は、1時間に1~2回、1回あたり5分程度を目安にしましょう。
- 体調チェックをしましょう
毎日体温をはかり、発熱やせき、のどの痛み等の症状がある場合は休みましょう。ご自身の行動を記録しましょう。

2. 人との間隔をとりましょう

- 間隔を1~2メートル開けましょう
最初はメジャーで測るとどのくらい離ればよいかわかってきます。
- 定員の半分程度を目安にしましょう
部屋だけでなく、乗り合いの車等も注意しましょう。

3. 再度の流行に備えましょう

- 自宅で体を動かしましょう
感染症の状況により、自粛が繰り返されることを想定して、テレビや本、ポスター、DVD、インターネットの動画等を活用しましょう
- 将来に向けて、少人数での集まり方を考えてみましょう
最初は無理かもしれませんが、これまでの考え方や方法を変えてみることも考えてみましょう。



次回1月中旬に掲載予定。「小田原医師会地域医療連携室」についてお伝えします。